

成田国際空港の現状と今後の取組み

成田国際空港株式会社

2008年9月4日

- . 空港の現況と今後の整備・運営見通しについて P. 1 ~
- . 当社の現況と今後の経営方針について P. 6 ~
- . 基本方針の記載事項に係る取組みについて P. 9 ~
- . 航空分科会の審議に対する要望事項 P. 20 ~



・空港の現況と今後の整備・運営見通しについて

成田国際空港の経緯

成田国際空港の経緯

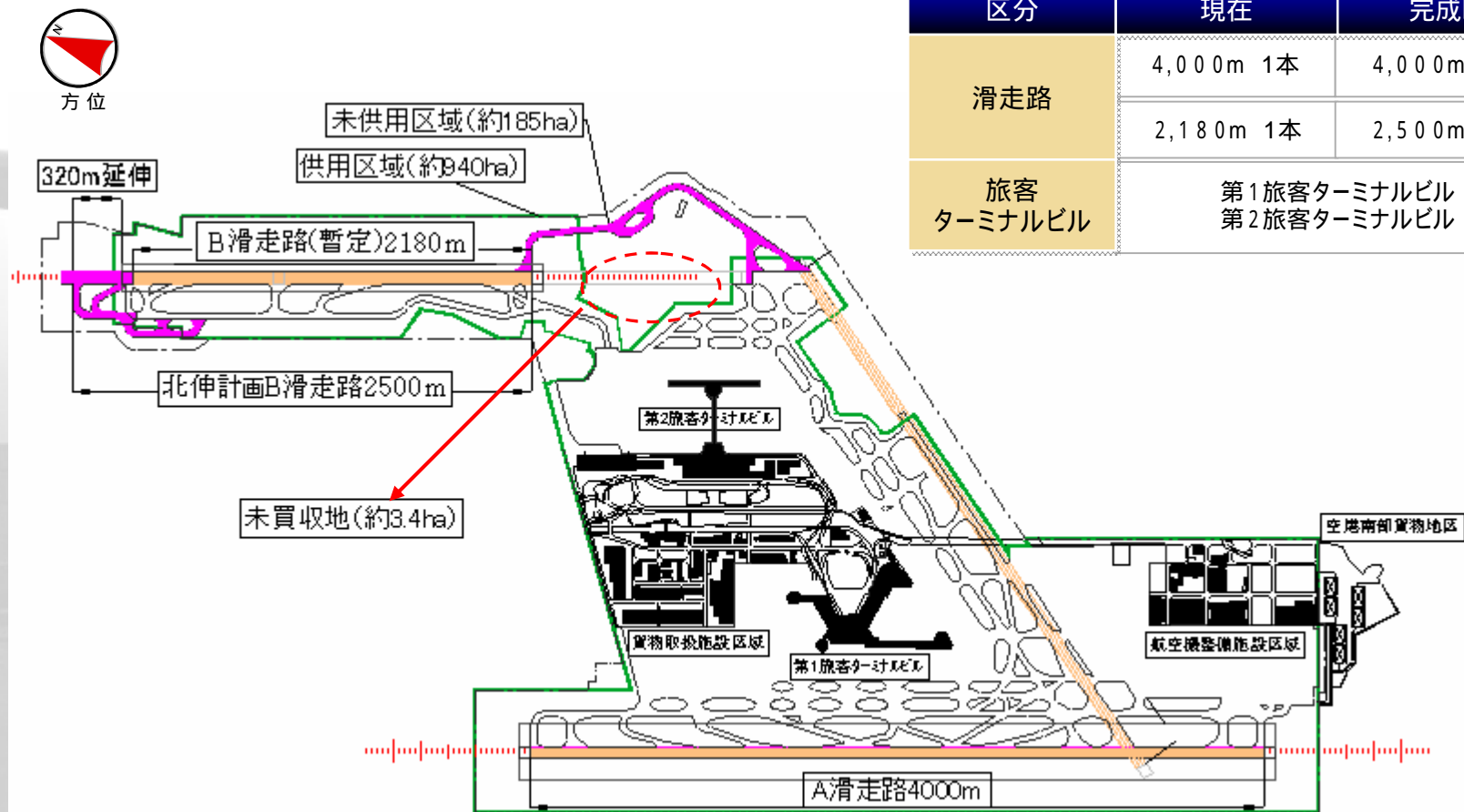
- 1966年 7月 新東京国際空港の設置及び管理を行う新東京国際空港公団として設立
- 1978年 5月 新東京国際空港(成田国際空港)開港
- 2002年12月 行政改革に係る閣議決定において、「完全民営化に向けて(中略)特殊会社にする」と整理
- 2004年 4月 公団を政府全額出資の特殊会社化し、成田国際空港株式会社が設立

成田空港問題の経緯

- 1966年 「新東京国際空港の位置及び規模について」閣議決定
- 1970年代～ 反対闘争の激化
 - 1971年東峰十字路事件で警官3人死亡
 - 1978年極左暴力集団による管制塔襲撃
 - 1988年極左暴力集団による千葉県収用委員会会長襲撃事件を受け、収用委員全員辞任
- 1978年 新東京国際空港(成田国際空港)開港
- 1991年 成田空港問題シンポジウム(1993年まで計15回開催)
 - 対立構造を根本的に解決することが全ての基本であることを認識し、収用裁決申請を取り下げ
- 1993年 成田空港問題円卓会議(1994年まで計12回開催)
 - 国側がB滑走路等を整備することは理解し、その用地の取得はあくまでも話し合いによること等を確認
- 1998年 「地域と共生する空港づくり大綱」発表
 - 「地域と共生する空港」の実現に向けて、共生策、空港づくり、地域づくりを密接に関連させつつ進めていくことを確認
- 2002年 B滑走路(暫定2,180m)供用開始
- 2004年 成田国際空港株式会社設立
- 2006年 北伸によるB滑走路2,500m化の工事に着手

成田国際空港の施設概要

- ◆ 4,000mのA滑走路と、2,180mのB滑走路の2本の滑走路で運用(年間の上限発着回数:20万回)
- ◆ 2006年9月、B滑走路の2,500m化に向けた北側延伸工事に着手(供用開始予定は2010年3月)
- ◆ 供用後は、A滑走路(13.5万回)を含め、22万回の発着が可能

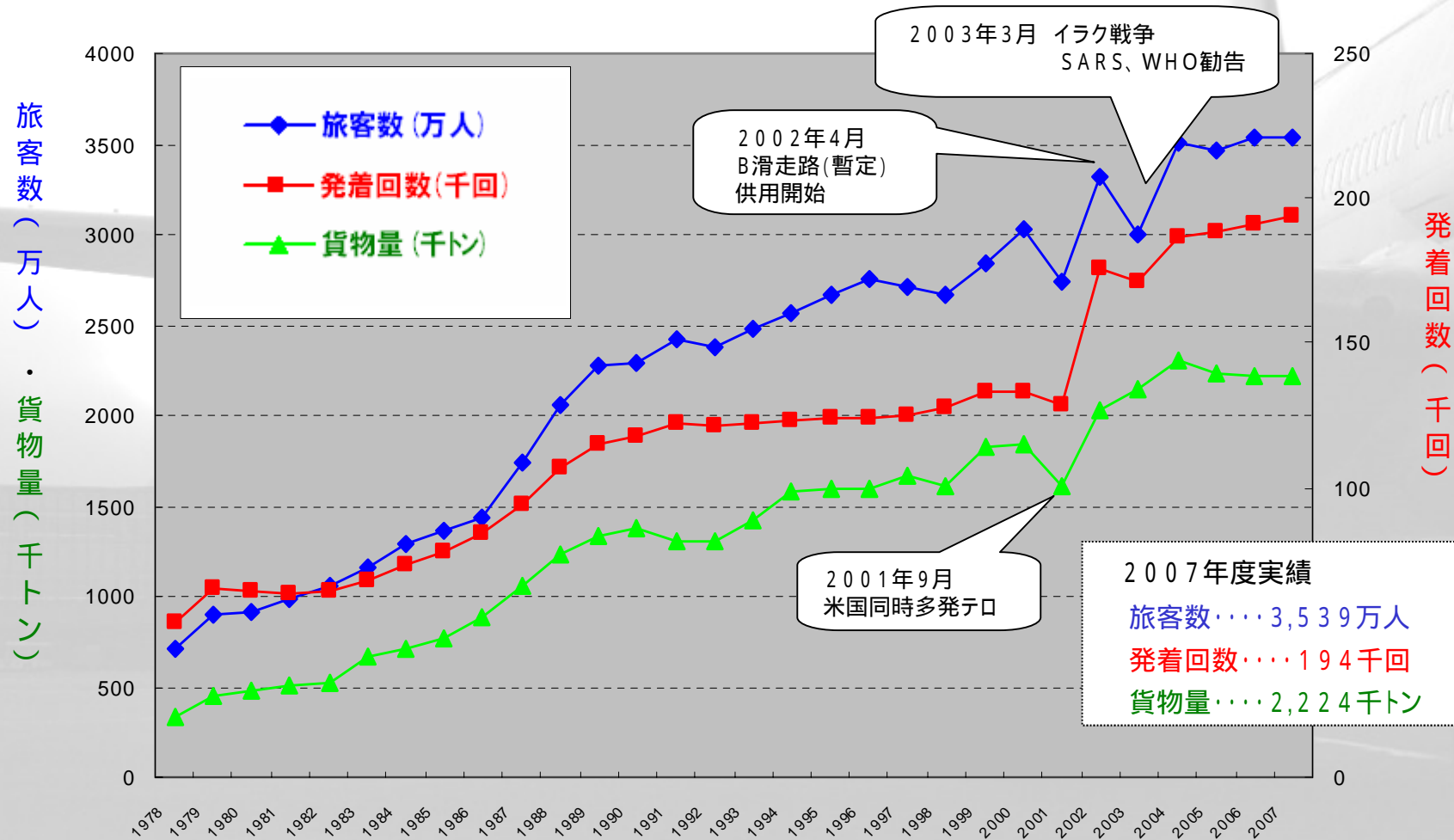


区分	現在	完成時
滑走路	4,000m 1本	4,000m 1本
	2,180m 1本	2,500m 1本
旅客ターミナルビル	第1旅客ターミナルビル 第2旅客ターミナルビル	

成田国際空港の運用実績推移 (1978年度～2007年度)

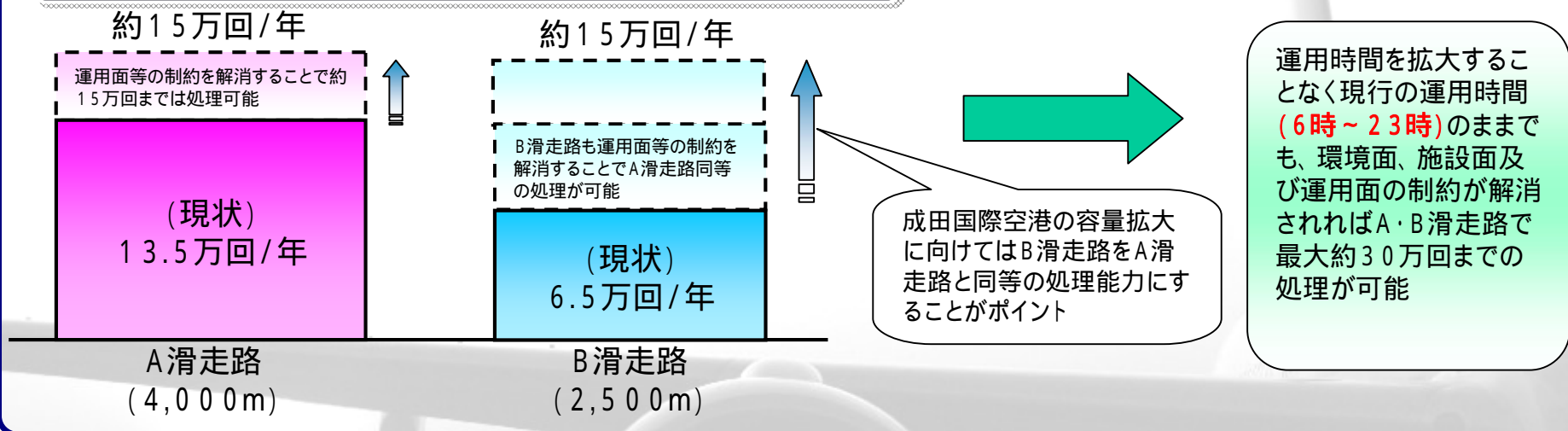


◆ 開港時との比較では、**発着回数**が日平均約**3.2倍**、**旅客数**が日平均約**4.3倍**、**貨物量**は日平均約**5.8倍**となっている。 1978年度と2007年度における年間を通じた取扱量の1日平均の比較

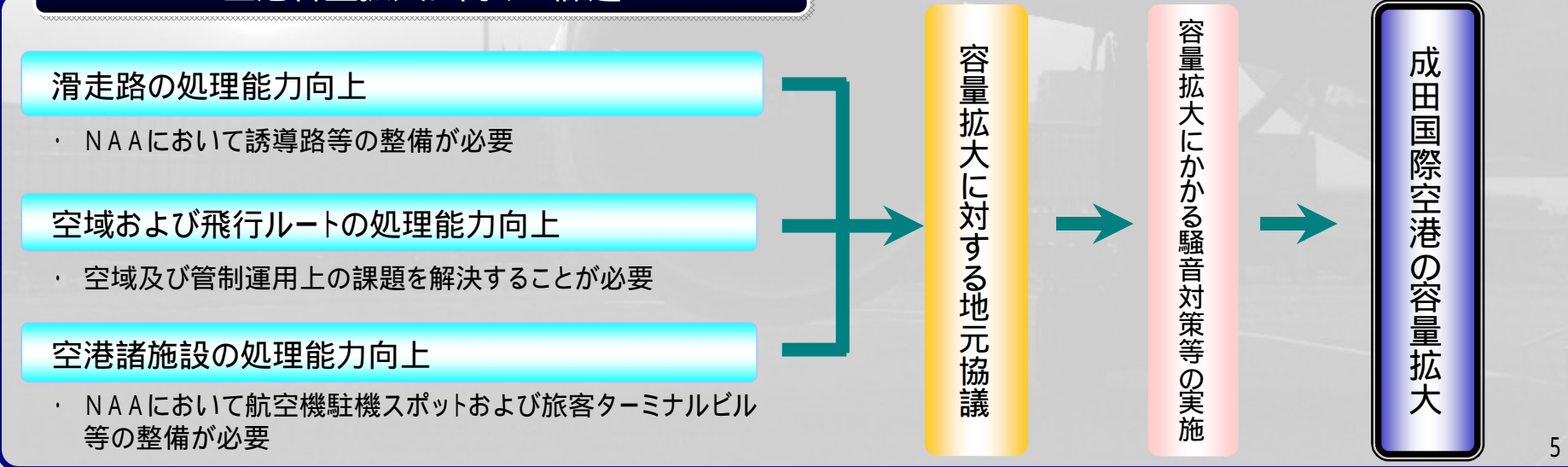


成田国際空港のポテンシャルと容量拡大に向けた課題

成田国際空港のポテンシャル（最大処理能力の可能性）



空港容量拡大に向けた課題





・ 当社の現況と今後の経営方針について

成田国際空港株式会社の概要



会社概要

【設立】：2004年4月1日

〔新東京国際空港公団
設立：1966年7月30日〕

【役員】：代表取締役社長 森中小三郎
代表取締役副社長 小堀陽史
代表取締役常務取締役 徳田彰士
常務取締役兼執行役員 5名
取締役兼執行役員特別顧問 1名
常務執行役員 6名
執行役員 7名
監査役 4名

【社員数】：730名（2008年7月1日現在）

【資本金】：1,000億円

（発行済株式総数：200万株）

グループ会社（計22社）

（2008年7月1日現在）

【施設保守業】：5社
【情報処理業】：2社
【給油・給油施設管理業】：2社（ ）
【警備・消防・手荷物カートサービス業等】：3社

【免税売店業】：3社
【小売・飲食・取次店業】：3社
【広告代理業】：1社



【鉄道事業】：2社

【不動産業】：1社

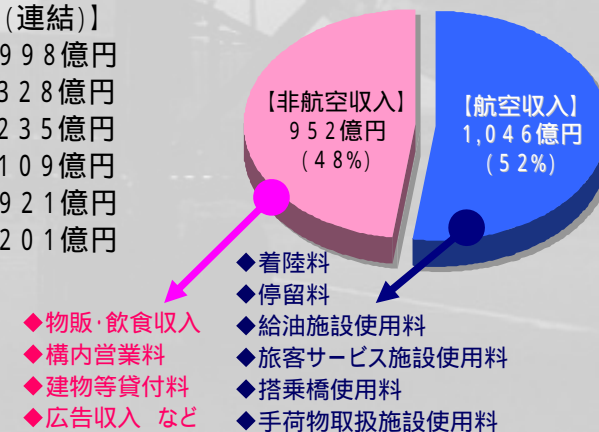
1社は持分法適用関連会社

財務状況（2008年3月期決算）

【決算業績ハイライト（連結）】

（営業収益）：1,998億円
（営業利益）：328億円
（経常利益）：235億円
（当期純利益）：109億円
（総資産）：9,921億円
（純資産）：2,201億円

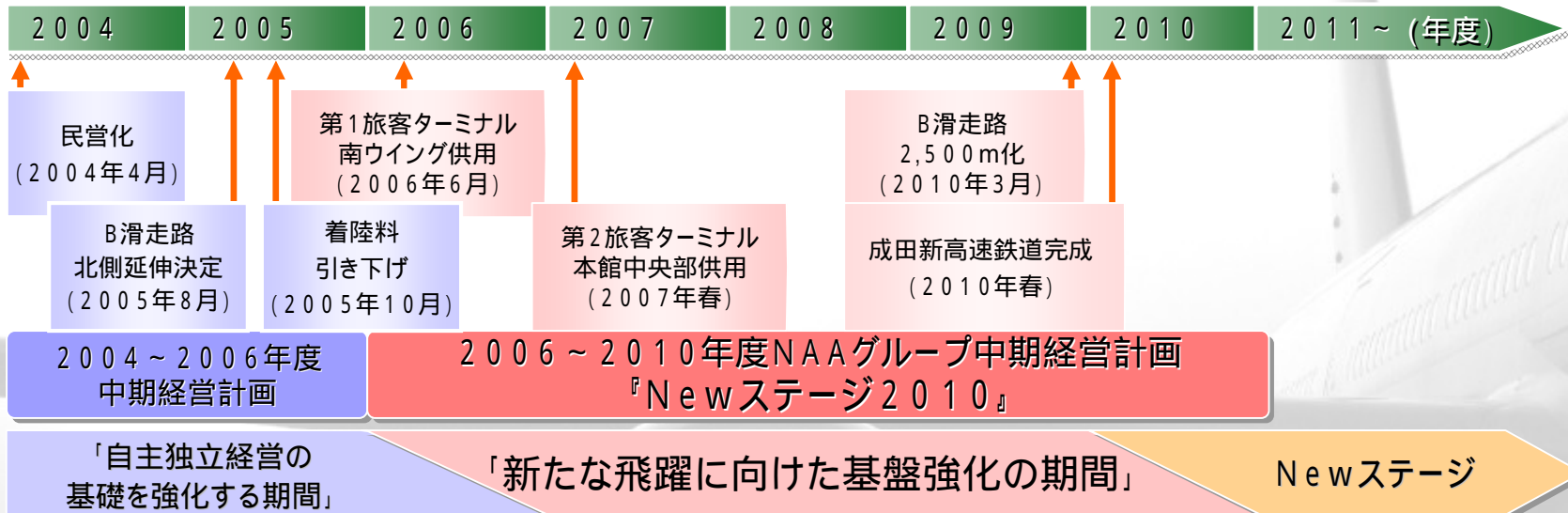
【営業収益の内訳】



中期経営計画『Newステージ2010』



経営方針の明確化



グループ投資計画(2010年度まで)

能力増強等空港基本機能の充実に係る投資

(B滑走路2,500m化・誘導路整備・スポット整備等)

1,200億円

安全性の向上、空港保安の徹底に係る投資

(カテゴリー b化・インラインスクリーニング整備等)

900億円

航空旅客等に対するサービス向上に係る投資

(成田新高速鉄道整備・A380アッパーデッキ対応搭乗橋整備・第2旅客ターミナルビルリフレッシュ等)

1,900億円

合計

4,000億円



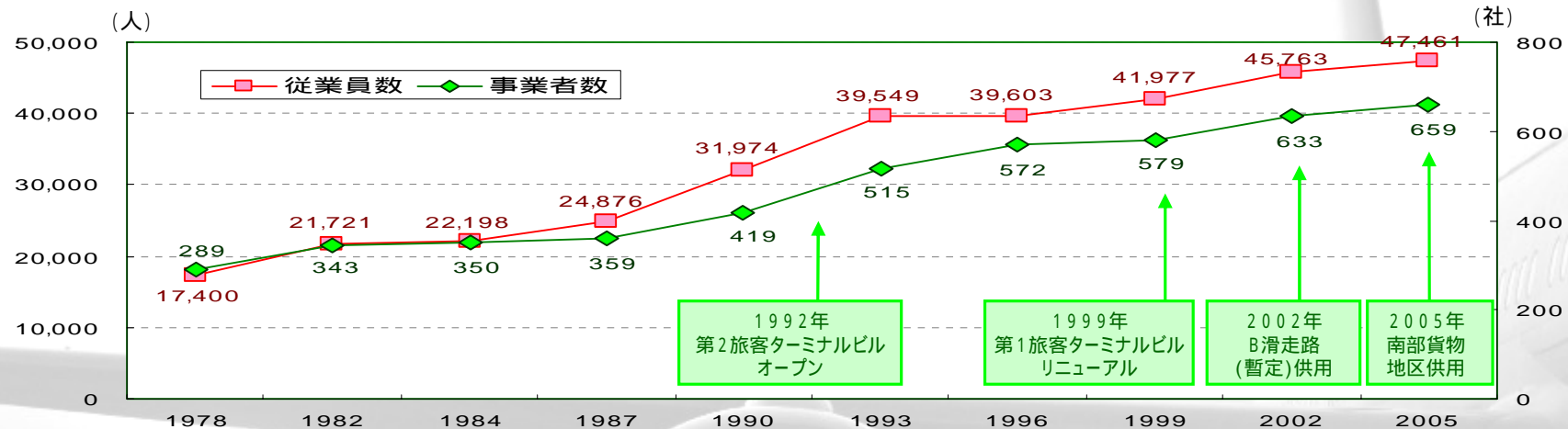
. 基本方針の記載事項に係る取組みについて

空港周辺地域の経済活性化



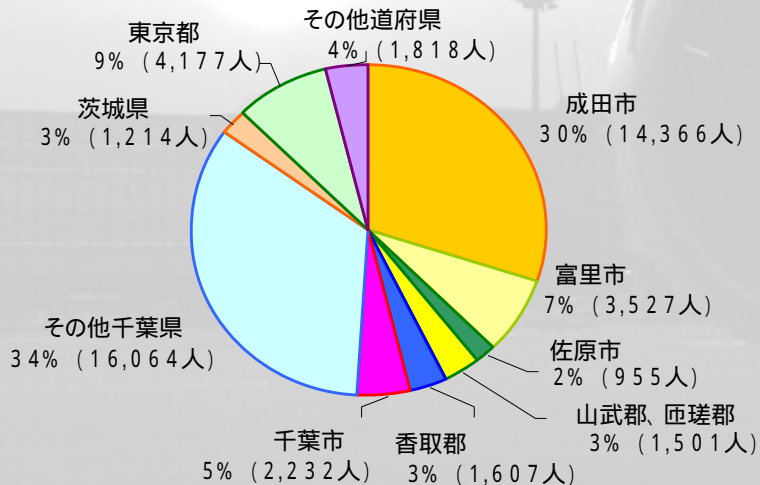
空港内事業者数等の推移

【調査対象日：2005年11月1日】

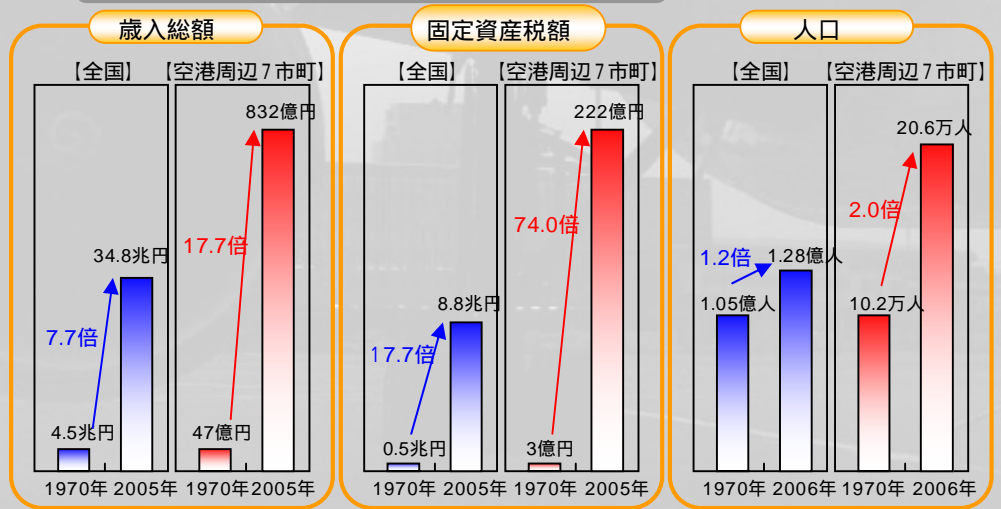


居住地別従業員数

【調査対象日：2005年11月1日】



周辺地域の税収及び人口



利用者利便の向上の取組み (CS活動)

◆ お客様の満足を追求し、期待を超えるサービスの提供を目指し、空港全体として「おもてなしの心を大切に」CS推進活動に取り組んでいる。

お客様の声のモニタリング

◆ お客様からのご意見、ご要望を積極的に取り入れた施設・サービスの改善

お客様満足度調査

日本人、外国人、乗継客のお客様を対象にアンケートを実施(隔年)

お客様の声ボックス

ホームページ

インフォメーションカウンター



分析・検討

施設・サービスの改善

改善例

乗り継ぎが分かりづらい

到着後にシャワーを浴びたい

旅行中ペットを預けたい

出発前にハガキを出したい

乗り継ぎパンフレットを作成

到着エリアにシャワールームを設置

空港内にペットショップをOPEN

ハガキお預かりサービスの開始

など

空港スタッフの意識向上のための取組み

空港スタッフ表彰制度



CSセミナー



CS意見交換会・CS活動報告会



CSフレンズの発刊



利用者利便の向上の取組み

(ターミナルビル改修)

出発ロビーの改修

第1旅客ターミナルビル

- ◆ 100%EDS(爆発物検知装置)によるインラインスクリーニング方式の導入(北ウイング)
- ◆ 北ウイング出発ロビーのリニューアル
 - セキュリティフェンスの撤去
 - 各カウンターにBIDS(液晶表示案内盤)を設置

第2旅客ターミナルビル

- ◆ 100%EDSによるインラインスクリーニング方式の導入
- ◆ 出発ロビーのリニューアル
 - セキュリティフェンスの撤去
 - チェックインアイランドのカウンター・天蓋を一新し各カウンターにBIDSを設置
 - ロビー内のサービス施設の再配置転換 など

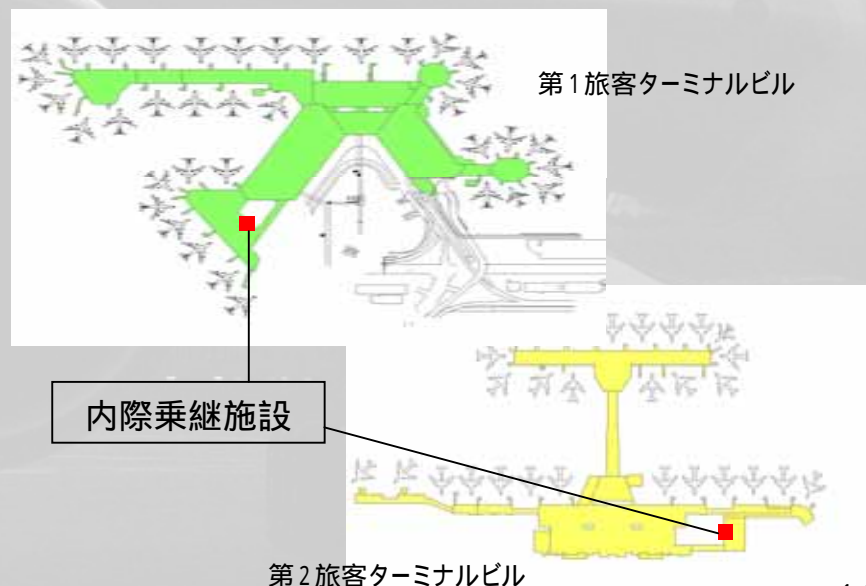


内際乗継施設の整備

- ◆ 国内線から国際線へ短時間で乗り継ぐ際の施設(ハイジャック検査場、出国審査場)を整備
- ◆ 従来の国際線出発ロビー経由で乗り継ぐ場合に比べ、移動距離及び移動時間を大幅に短縮()することが可能

第1旅客ターミナル国内線 国際線56番ゲート
従来の動線720m から180m に短縮

第2旅客ターミナル国内線 国際線63番ゲート
従来の動線980m から150m に短縮



利用者利便の向上の取組み (ユニバーサルデザイン)

- ◆ 「高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー新法)」や各種ガイドラインに則してユニバーサルデザインの考え方を取り入れた施設づくりを実施している。
- ◆ 2006年6月にグランドオープンした第1旅客ターミナル南ウイングでは、積極的にユニバーサルデザインを各所に取り入れている。
 - 大型シースルーエレベーターの設置
 - 車椅子利用でも追い越し可能な幅広の動く歩道
 - オストメイト対応・収納式多目的シートを持つ広い多機能トイレ
 - 車椅子の貸し出しや介助サービス など

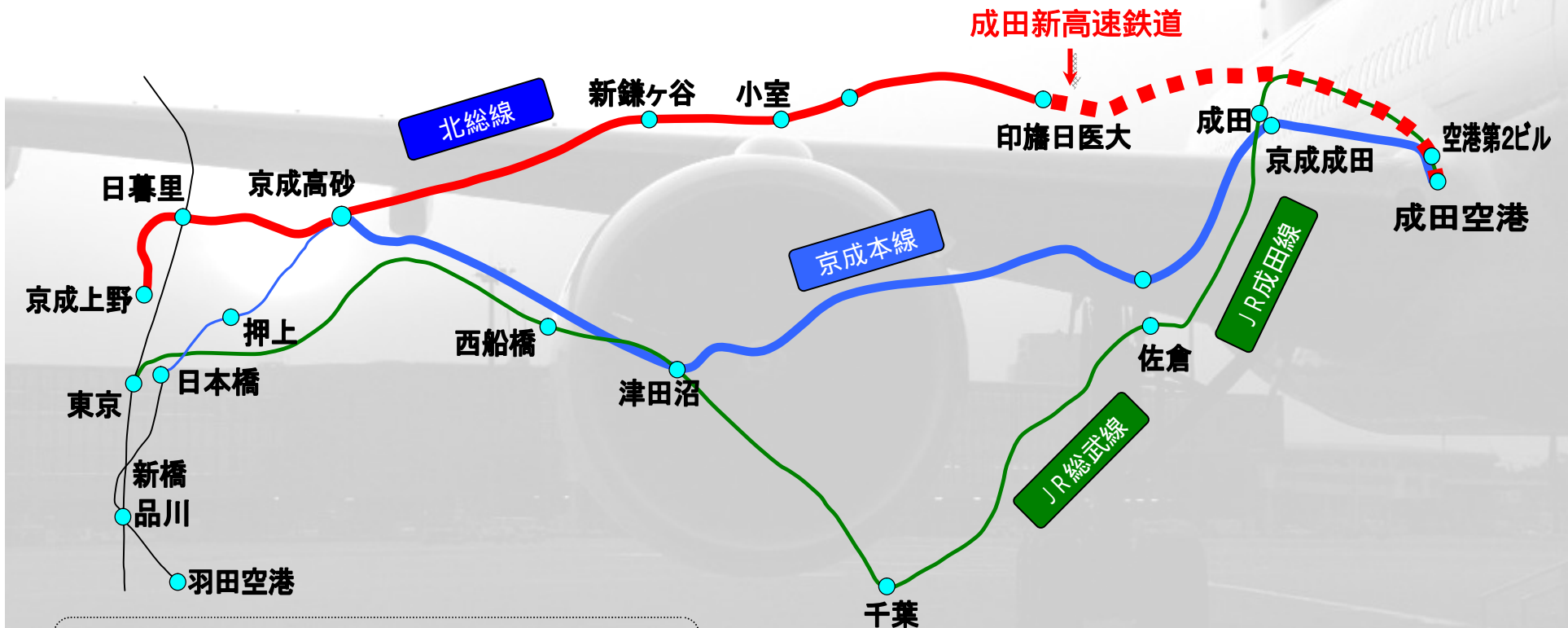


利用者利便の向上の取組み

(成田新高速鉄道の整備)



- ◆ 総事業費：1,500億円 (うちNAA:600億円)
- ◆ 完成予定：2010年春
- ◆ 日暮里～空港間：最短36分(現行最短51分)
- ◆ 京成電鉄が新型(高速)スカイライナーを運行



【参考】

- ◆ 日暮里-浜松町 (JR: 18分)
- ◆ 浜松町-羽田第1ターミナル (東京モノレール[空港快速]: 16分)

安全・安心の確保 (セイフティ)

< 成田国際空港株式会社 経営ビジョンより抜粋 >

「安全を徹底して追求し、信頼される空港を目指します。」

「安全」は基本であり、すべてに優先するものです。空港の安全と安心を徹底して追求します。

* 安全を推進するために、社内に「安全推進委員会」を設置し、グループ会社との連携を図るための「NAAグループ安全会議」を発足した。また、「安全推進協議会」により関係事業者との協力体制を構築している。

大規模地震等各災害への対策

- ◆ 防災業務計画の策定
- ◆ 防災週間に併せた防災(地震)訓練の実施
- ◆ 災害応急対策における初動体制の整備
- ◆ 空港内施設の耐震補強及びライフラインの安全性の向上



緊急医療体制

- ◆ 24時間体制の救急医療体制の整備
- ◆ 救急医療を集中配備した急患対応室の設置
- ◆ 自動体外式除細動器(AED)の設置
- ◆ 救急搬送マニュアルの整備と航空会社との連携強化



災害訓練

- ◆ 千葉県、消防、医療等関係全機関による航空機事故消火救難総合訓練の実施(年1回)
- ◆ 地元消防、空港内医療機関、航空会社、NAAによる航空機事故消火救難合同訓練の実施(年1回)
- ◆ 空港諸施設における消火避難誘導訓練の実施
- ◆ 航空機燃料施設における消防訓練等の実施
- ◆ 自衛消防の設置



安全・安心の確保（セキュリティ）

ゲート警備等

- ◆警備・消防センターを核とし、空港ゲート、場周及び制限区域等の諸施設に警備員を24時間体制で配置
- ◆制限区域等、重要区域出入管理のセキュリティレベル向上のため、空港内統一IDカードのIC化を導入
- ◆センサー（断線式）連動カメラシステムによる機械警備の導入による更なるセキュリティレベルの向上



テロ・ハイジャック対策

- ◆旅客ターミナルビルの出発・到着動線の完全分離
- ◆100%EDS（爆発物検知装置）によるインラインスクリーニング検査の実施
- ◆関係者によるハイジャック・テロ訓練・不法侵入防止訓練等の実施
- ◆空港保安委員会の設置等水際対策のための関係者による連携強化



環境保全の取組み

◆ 1998年5月に発表した「エコ・エアポート基本構想」の理念を継承し、これに基づき「環境基本方針」を策定、さらに具体的な活動を推進するため「エコ・エアポート基本計画」で目標設定を行い、積極的な環境保全活動に取り組んでいる。



- ◆ 大気汚染物質排出量の削減
- ◆ 地球温暖化物質排出量の削減
- ◆ 省エネルギーの推進

- ◆ 節水の推進
- ◆ 一般廃棄物のリサイクル推進と排出量の削減



- ◆ 空港周辺地域における自然環境保全
- ◆ 空港周辺地域の農業再生への協力



- ◆ 航空機騒音の影響軽減
- ◆ 大気質の空港周辺地域への影響軽減
- ◆ 雨水排水水質の空港周辺地域への影響軽減



- ◆ 情報公開の充実
- ◆ 関連事業者・お客様・国内外他空港との連携
- ◆ 社会貢献活動等の充実

- ◆ 大気汚染物質排出量、地球温暖化物質排出量及びエネルギー消費量の削減
- ◆ 節水の推進
- ◆ 一般廃棄物のリサイクル推進と排出量の削減
- ◆ グリーン調達の実施



- ◆ 環境経営の推進

騒音対策事業の実施

- ◆ 航空機騒音対策として、航空機の機材改良、発着規制、運航方式の改善等による「発生源対策」、防音林・防音堤の整備、消音施設の設置等による「空港施設の改良」、土地利用や地元対策、補償等による「空港周辺対策」等に取り組んでいる。

住宅等の防音工事



- ◆ 航空機騒音による騒音障害の軽減を図るため、騒音区域内の防音工事を助成
 - 住宅
 - 学校
 - 共同利用施設 など

移転補償等



- ◆ 空港周辺で航空機騒音による騒音障害が著しい地域については、騒音区域からの移転補償等を実施

騒防法：公共用飛行場周辺における航空機騒音による障害の防止等に関する法律
騒特法：特定空港周辺航空機騒音対策特別措置法

電波障害対策



- ◆ 成田国際空港に離発着する航空機によるテレビ受信障害の軽減を図るため、UHF放送の中継放送局4局を建設するとともに、空港周辺市町村の世帯に対し、個別及び共同受信のアンテナを設置

周辺対策交付金の交付



- ◆ 県や周辺自治体に対し、航空機騒音防止対策や空港周辺整備の費用に充てるものとして交付
- ◆ 2007年度までの交付総額は約844億円

◆ 空港と周辺地域との共生を目指し、環境保全や騒音対策のほか、様々な地域振興策や地域との交流に取り組んでいる。

グリーンポート エコ・アグリパーク



◆ かつての里山を復活させることを目標とし、子供達が自然・農業等の体験を通し学ぶことが出来る体験型自然公園(約18.5ha)を整備

クリスマス チャリティフェスティバル



◆ 毎年約7千人のお客様、地域の方と共に空港内で開催するクリスマスイベント
◆ 収益金は日本赤十字社や周辺地域の社会福祉法人等に寄付

有機農業研修生 の受入れ



◆ 「空港周辺地域の農業の再生への協力」として、2005年度より有機農業研修生の受入れを実施

緑化整備



◆ 豊かな自然を大切に、失いかけた自然を取り戻すべく、空港周辺の緑化整備を実施
➢ さくらの丘(0.9ha)
➢ 水辺の里(5ha)

周辺地域児童を招いて の自然体験



◆ 毎年秋にNAAの所有地にある栗林に周辺地域の園児を招き、栗拾い体験を実施

空港周辺児童 書道・絵画展



◆ 空港周辺地域の小学生を対象に、書道と絵画の作品を募集
◆ 今年で23回目を迎え、優秀作品は表彰し、ターミナル内に展示

農業振興による 土地利用



◆ 農地として利用可能な移転跡地を周辺自治体の協力を得ながら、地元農家へ貸付(約155ha)



・航空分科会の審議に対する要望事項

【 】首都圏空港の機能分担と成田国際空港の国際航空ネットワークのさらなる強化について

【 】空港容量の拡大について

【 】地域との共生について

【 】完全民営化に向けた経営環境の整備について